



3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University



心をつなぐ 知の拠点
広島平和研究所
Hiroshima Peace Institute

広島市立大学 大学院

平和学研究科 平和学専攻

Hiroshima City University

Graduate School of Peace Studies

(Programs in Peace Studies)



設置の趣旨

本学は、世界で最初の被爆地である広島に設立された総合大学として、1998年4月に附置研究機関である広島平和研究所を設置し、核兵器の廃絶に向けた学術研究を進めるとともに、世界平和の創造・維持、地域社会の発展に貢献することを目指して、平和に関する教育・学術研究に取り組んでいます。

平和学研究科では、平和学をはじめ国際政治学、国際法学、国際関係論の関連する専門領域の分析手法を修得し、その上で、現実の諸問題を専門的かつ総合的に分析する能力を有するプロフェッショナルな人材を養成することにより、平和創造及び平和維持に貢献することを目的としています。

■ 学長あいさつ



広島市立大学
学長 若林 真一

1994年に開学した広島市立大学は、人類史上最初の被爆都市・広島に設置された公立大学として世界平和に貢献する人材の育成に積極的に取り組んでまいりました。1998年には附置研究所として広島平和研究所を設立し、平和に関する学術研究を積極的に進め、被爆地にある平和研究所として世界にその存在感を高めてきました。

広島平和研究所の学術成果を基に、平和創造及び平和維持に関する教育・学術研究の世界的な拠点となることを目指し、本学は、2019年4月、平和学研究科(修士課程)を開設し、2021年4月には博士後期課程を設置しました。高度な専門知識と知見を活かして世界平和に貢献する研究者、ジャーナリスト、公務員などのプロフェッショナルな人材を養成します。広島市立大学はそのミッションをさらに力強く果たしていく所存です。

■ 研究科長メッセージ



広島市立大学大学院
平和学研究科長 大芝 亮

平和学研究科は、1998年に設立された広島平和研究所の目的を、従来の研究活動に加え、教育活動を通して、実現していくことを目指しています。

本研究科では「広島発の平和学」を、皆さんとの討論等のなかから、一緒に創りあげていきたいと思っています。

広島の人々は、被爆体験、核兵器廃絶活動、復興への取り組み、平和行政、市民運動を展開するなかで、様々な問題・困難にも遭遇してきました。研究科での学修を通じて、これらの成果と課題を、余すところなく率直に再検討していきましょう。経済学者マーシャルの有名な言葉である「冷徹な頭脳と温かい心(Cool Heads but Warm Hearts)」をもって「広島発の平和学」を構築し、世界に発信していく。これは広島で学ぶ者のミッションと言えるでしょう。

平和学研究科の理念と目的について

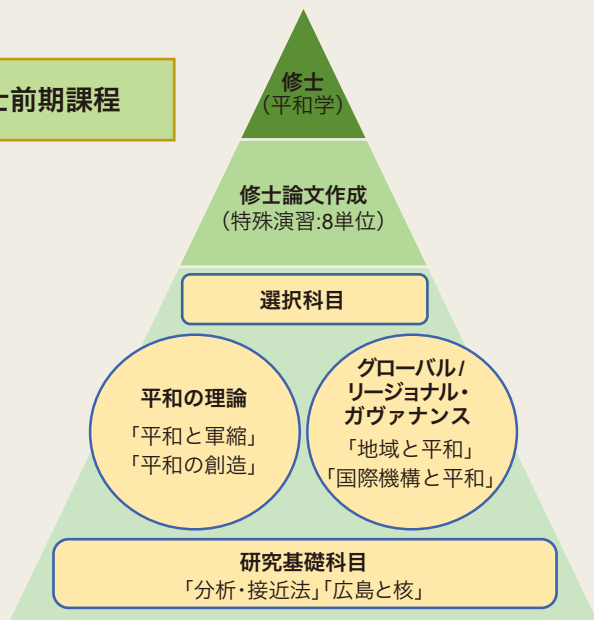
現在、国際社会は平和でも安全でもない状況が続いています。米ソの冷戦終結後も、自由主義と民主主義を基調とするグッド・ガバナンスのグローバル化や20世紀後半からの国際統合、グローバル社会化の波は停滞しています。深まる南北格差により、人間の安全保障も停滞している上、気候変動問題などの地球環境問題も国際社会の大きな課題となっています。

日本を取り巻くアジアにおいても、核開発や軍拡競争が進展するなど、アジア全般の安全保障環境は悪化していますが、その一方でリージョナル・ガバナンスの安定化に必要な国際平和と安全保障機構の創設の気配は未だに見えません。このように国際政治的危機の構造を解明し、同時に平和秩序と平和制度を創造することは、政治的課題であるだけでなく、喫緊の学術的課題でもあります。

広島市立大学大学院平和学研究科では、学生が平和学をはじめ国際政治学、国際法学、国際関係論の関連する専門領域の分析手法を修得し、その上で、現実の諸問題を専門的かつ総合的に分析する能力を有するプロフェッショナルな人材を養成することにより、平和創造及び平和維持に貢献することを目的としています。



博士前期課程



●養成する人材像

博士後期課程への進学

国際関係の仕組み及び政治・ガヴァナンスの基本構造と人間の安全保障との関連を洞察できる能力を持ち、同時に、紛争予防と紛争解決に向けた有効な予防措置を考案できる研究者

高度に専門的な知識を持ちつつ平和創造及び平和構築に向けた国際公共政策の立案・策定に貢献できる国際公務員、国際NGO・NPOの職員、及び公共政策・国際関係の実務に携わる国家公務員・地方公務員

今日の国際紛争及びグローバル問題など様々な事象を科学的かつ複眼的に分析する手法を修得し、同時に市民社会や国際社会に向けて平和創造の視点から発信する力を有するジャーナリスト及びマスメディア専門家

博士前期課程のカリキュラム

核戦争の脅威と悲惨さを学び、その上で、戦争と平和の歴史、及びこれまで人類が開発してきた平和創造の手法を修得することを目指します。これらを系統的に修得するため、授業科目を「研究基礎科目」「平和の理論」「グローバル/リージョナル・ガヴァナンス」の3つの科目区分で構成し、それぞれの科目区分をさらに小さな科目群に区分しています。

科目区分	科目群	履修要件	科目名	単位数	◎日本語と英語で提供 ○英語で提供(日本語は不可)
全研究科共通科目		2単位選択必修	人間論A (人文・社会学)	2	
			人間論B (自然科学)	2	
			ヒロシマと核の時代	2	○
			日本論	2	
			科学技術と倫理	2	
			情報と社会	2	
			道具論	2	
			都市論	2	
			平和学	2	
研究基礎科目	分析・接近法	4単位以上選択必修	グローバル・ガヴァナンス論	2	◎
			現代社会と平和	2	
			現代国際法と平和	2	◎
			日本国憲法と平和主義	2	
			地方自治と平和	2	
	広島と核	4単位以上選択必修	核と歴史Ⅰ	2	
			核と歴史Ⅱ	2	
			被爆の記憶	2	
			核文化論	2	○
			グローバル・ヒバクシャ	2	○
平和の理論	平和と軍縮	2単位以上選択必修	反核運動史	2	◎
			軍縮国際法	2	◎
			核軍縮と核軍備管理	2	
			国際人道法	2	◎
			科学と平和	2	◎
	平和の創造	2単位以上選択必修	軍縮と平和	2	◎
			戦争裁判と国際刑事裁判	2	
			安全保障論	2	
			平和構築と国際社会	2	◎
			グローバル・コミュニケーション論	2	
グローバル/リージョナル・ガヴァナンス	地域と平和	2単位以上選択必修	ジャーナリズム論	2	◎
			平和思想と平和運動	2	◎
			東南アジアをめぐる国際関係	2	○
			東南アジアの紛争と協力	2	○
			韓国・北朝鮮外交と核問題	2	
	国際機構と平和	2単位以上選択必修	現代中国の政治と外交	2	
			現代ロシアの政治と外交	2	◎
			日本の近現代史	2	
			日本の平和・安全保障政策	2	
			国連論	2	◎
国際環境論	2	◎			
国際組織と国際制度	2				
地域機構と平和・安全保障	2	◎			
予防外交論	2				
特殊演習		必修8単位	平和学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	各2	
インターンシップ		—	平和インターンシップ	1	

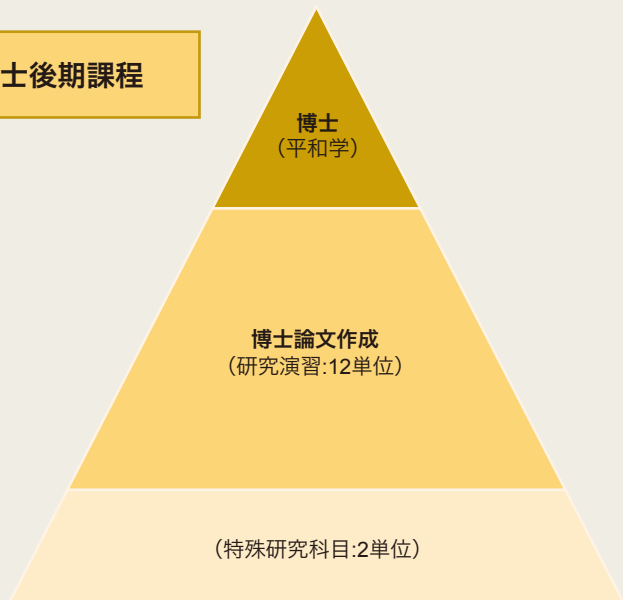
<修了要件> ①2年以上在学して所定の履修条件を満たし、30単位以上を修得すること。②修士論文を提出し、その審査と最終試験に合格すること。

※ 英語による授業科目のみで学位を取得することができます。

取得できる学位

修士(平和学)

博士後期課程



●養成する人材像

グローバル／リージョナル・ガバナンスの構造と人間の安全保障との関連を洞察できる能力を持ち、同時に、人間の安全保障と国際平和の制度構築に向けた有効な平和政策を考案できる研究者

高度に専門的な知識を持ちつつ平和創造及び平和構築に向けた国際公共政策の立案・策定に貢献できる国際公務員、国際NGO・NPOの職員、及び公共政策・国際関係の実務に携わる国家公務員・地方公務員

今日の国際紛争及びグローバル問題など様々な事象を科学的かつ複眼的に分析する手法を修得し、同時に市民社会や国際社会に向けて平和創造の視点から発信する力を有するジャーナリスト及びマスメディア専門家

博士後期課程のカリキュラム

博士学位論文の構想作成に必要な学識を身につける特殊研究科目と博士学位論文の作成に必要な研究指導を行う研究演習科目を置き、国際平和を脅かす軍事要因、人間の安全を脅かす非軍事要因、及びグローバル諸課題の構造要因を分析する編成としています。

科目区分	科目名	単位数
特殊研究科目	グローバル・ガバナンス論特殊研究	2
	現代社会と平和特殊研究	2
	現代国際法と平和特殊研究	2
	日本国憲法と平和主義特殊研究	2
	核と歴史特殊研究	2
	グローバル・ヒバクシャ特殊研究	2
	軍縮国際法特殊研究	2
	軍縮と平和特殊研究	2
	安全保障論特殊研究	2
	グローバル・コミュニケーション論特殊研究	2
	平和思想と平和運動特殊研究	2
	東南アジアの紛争と協力特殊研究	2
	韓国・北朝鮮外交と核問題特殊研究	2
	現代中国の政治と外交特殊研究	2
日本の近現代史特殊研究	2	
国連論特殊研究	2	
研究演習	平和学研究演習 I・II・III・IV・V・VI	各2

<修了要件>

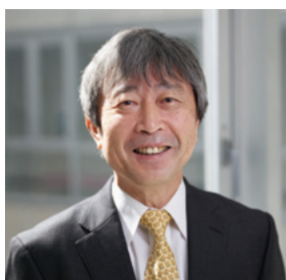
- ①3年以上在学して所定の履修条件を満たし、14単位以上を修得すること。
- ②博士論文を提出し、その審査と最終試験に合格すること。

取得できる学位

博士(平和学)



教員・研究分野 紹介



研究科長、特任教授
大芝 亮

Ph.D. in Political Science
国際関係論
(グローバル・ガバナンス論)



副研究科長、教授
永井 均

博士(文学)
日本近現代史/
日本・フィリピン関係史



教授
梅原 季哉

博士(平和学)
国際関係論/安全保障と軍縮・非核
規範/戦争・平和のメディア論



教授
沖村 理史

博士(法学)
国際関係論/国際制度研究/
国際連合研究



教授
河上 暁弘

博士(法学)
憲法学/地方自治論/平和学



特任教授
佐藤 哲夫

博士(法学)
国際法/国際組織法



教授
ジェイコブズ, ロバート

Ph.D. in History
科学技術史/核兵器の歴史・文化



准教授
四條 知恵

博士(比較社会文化)
歴史社会学/原爆の記憶と表象



准教授
徐 穎芬

歴史学博士、博士(政治学)
日中関係史/東アジア国際関係論/
国際協力論



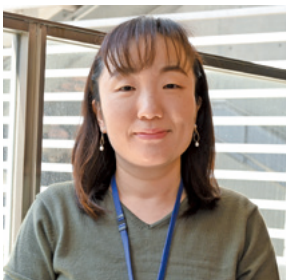
准教授
孫 賢鎮

博士(法学)
国際法/朝鮮半島の国際関係/北
東アジア安全保障



准教授
竹本 真希子

Dr. rer. pol.
ドイツ近現代史/
平和思想・平和運動史



講師
加藤 美保子

博士(学術)
国際関係論/ロシア外交/
東アジアの国際秩序



平和学研究科 大学院修了生からのメッセージ



広島市立大学 大学院
平和学研究科 博士後期課程 2024年3月修了

森上 翔太さん

研究テーマを教えてください

広島平和記念都市建設法の軌跡と展望

テーマを選んだ理由は何でしょうか

広島平和記念都市建設法に関する研究はほとんど行われていなかったところ、国や地方自治体で立法・行政の実務に携わった私の職務経験を生かせば、少しは学問的な貢献ができるのではないかと考えたからです。

平和学研究科を選んだ理由を教えてください

私の研究は、法学、歴史学、社会学など学際的なアプローチを必要とするのですが、平和学研究科には幅広い学問分野の先生方がいらっしゃり、充実した指導が受けられると思われたからです。また、働きながらも無理なく研究を進められる環境が整っている点にも魅力を感じました。

■ 卒業後の進路

平和学研究科 修了生の進路（一例）

- 平和学研究科 博士後期課程
- NEXCO 東日本
- 独立行政法人 国際協力機構（JICA）
- 日本学術振興会
- 公益財団法人 国際人材育成機構（IM Japan）
- サイモンフレーザー大学（カナダ）

■ 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金等の他、平和学研究科独自の奨学金があります。
<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0004/>



■ 学生寮

国際学生寮「さくら」に入居が可能です。（審査あり）
<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/campuslife/content0007-2/>



広島市立大学 大学院
平和学研究科 修士課程 2021年3月修了

小杉 拓己さん

研究テーマを教えてください

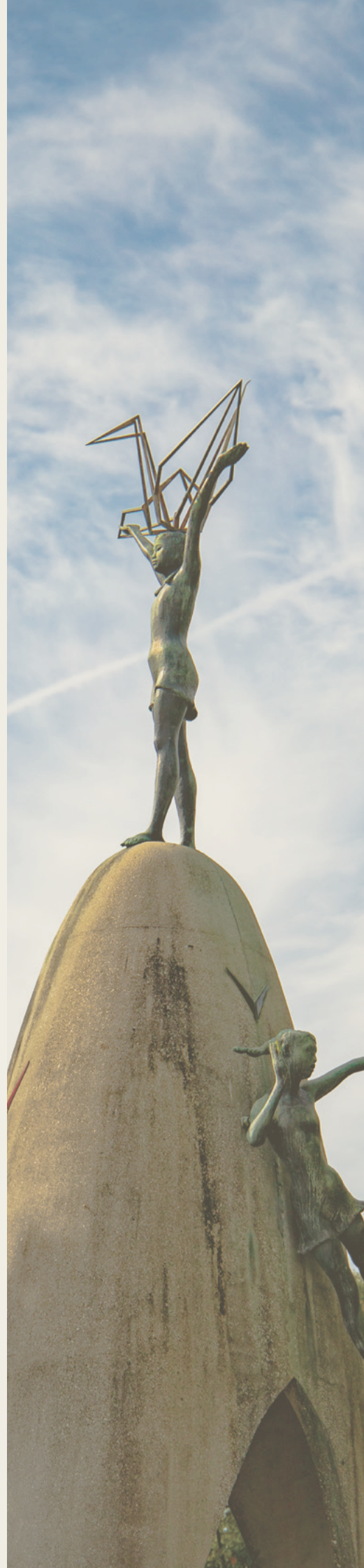
ロシア・ユーラシア地域の国際関係について——
特にクリミア半島の帰属をめぐる諸問題

テーマを選んだ理由は何でしょうか

学部卒業論文での研究テーマを引き継ぎました。修士課程で得た知見を基に、卒論執筆時に浮かんだ疑問を深掘りしたいと考えたからです。

平和学研究科を選んだ理由を教えてください

学部時代の指導教員の推薦と、国際政治と国際法の両方を学べる環境が整っているためです。私の研究テーマは国際政治学と国際法にまたがっているため、この両方の分野で第一人者の先生方に学べることが平和学研究科の魅力であり、進学を決め手でした。



■ 入試の概要

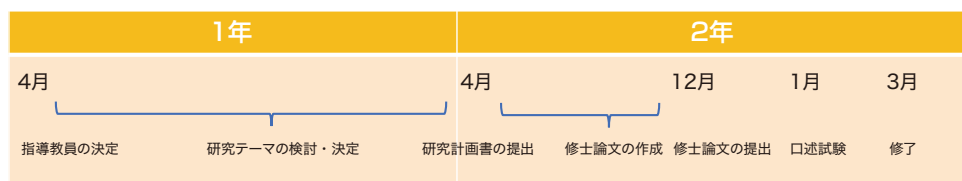
課程	試験区分	選抜方法	入試日程	入学時期	入学定員
博士前期課程	一般入試	筆記試験(小論文)、口述試験	① 8月下旬	① 同年10月または翌年4月	10
			② 2月上旬	② 同年4月	
	社会人特別入試	書類選考、口述試験	① 8月下旬	① 同年10月または翌年4月	
			② 2月上旬	② 同年4月	
	外国人留学生特別入試	書類選考	① 6月	① 同年10月	
			② 11月下旬～12月上旬	② 翌年4月	
博士後期課程	一般入試	書類選考、口述試験	① 8月下旬	① 同年10月	4
			② 2月上旬	② 同年4月	

※入試に関する最新の情報は本学ウェブサイトでご確認ください。

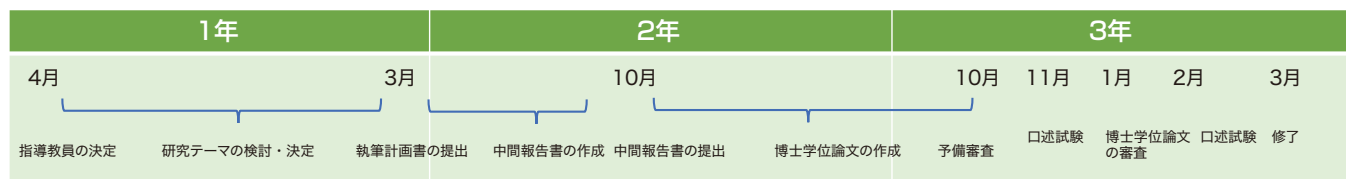


■ 研究指導のスケジュール ※以下は4月入学の場合のスケジュールです。

博士前期課程



博士後期課程



■ 社会人支援制度

意欲ある社会人の修学をサポートするために、以下の制度を設けています。

- ① **学費の免除**: 国・地方自治体・報道機関・国際機関等で働いている人を対象とした入学金・授業料の免除制度があります。(申請により審査を行います)
- ② **長期履修制度**: 入学後の申請により「長期履修学生」として認められた場合、博士前期課程においては2年分・博士後期課程においては3年分の授業料で、教育課程を延長することができます。
※延長期間の上限: 博士前期課程では4年、博士後期課程では6年

■ 諸費用

入学検定料	30,000円	
入学金	広島市内在住者	282,000円
	広島市外在住者	423,000円
授業料	前期分(4月末までに納入)	267,900円
	後期分(10月末までに納入)	267,900円

●お問い合わせ

広島市立大学 広島平和研究所事務室

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL: 082-830-1811 FAX: 082-830-1812
E-mail: office-peace@m.hiroshima-cu.ac.jp

◎最新情報は広島平和研究所ウェブサイトをご覧ください。

右記のQRコードからアクセスしてください。

